

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	4270102678
法人名	有限会社 勝法
事業所名	グループホーム 中川のより道
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市中川1丁目7番14号 (電 話) 095-824-5199

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成21年3月18日	評価確定日	平成 21年 3月 26日

【情報提供票より】(20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10人	常勤	10人, 非常勤 0人, 常勤換算 10.

(2) 建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築/ 改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	4 階建ての,	1 階 ~ 4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(20年4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	78 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山口整形外科、はざま神経内科、山田歯科、サンブライト愛宕
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長崎市内の下町にホームができて、7年目の春を迎える。運営者である管理者は、この7年間で振り返り、「とにかく人に恵まれていました。その出会いで今があります」と語って下さった。ご利用者にとって良いと思われるものは、次々に取り入れてきた。人生の大先輩であるご利用者の“今の生活リズム、可能性”を大切に保ちつつ、ホームのあるべき姿を、ご家族、地域の方々とも一緒に考え進捗を続けてきている。何気ない日常生活の中においても、ケアに関して高い目標を持ち、根拠を持って取り組む姿勢がこのホームにはある。ホーム長を中心に、医師や歯科医師、管理栄養士等との連携も地道に作ってきており、短期大学等との連携により、フットマッサージ等の効果の検証も行ってきた。7年の歳月の中で、ご利用者も職員も一緒に年齢を重ねてきているが、その中で“あるべきケア、あるべき生活”をともに築きあげてきている。ご利用者から、職員が教えて頂くことも日常であり、生活の中でも、ご利用者が率先して役割を遂行している姿が見られる。「ここに自分の居場所がある。役割がある」と言う安心感、ご利用者の心からの笑顔になっており、他者を慈しむ“人本来の優しさ”がホーム内に満ちている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の外部評価の結果は、全職員で話し合い改善計画を作成した。取組み内容の一部として、①ご家族の本音の気持ちを言って頂き、より良いホーム運営につなげるとともに、ご利用者の更なる生活の質の向上を図るために、“家族会”の内容を充実させた。毎回、話し合う議題を決め、それぞれのお考えを聞かせて頂き、職員も学ぶ機会とさせて頂いた。②運営推進会議の参加者を更に増やすとともに、貴重なご意見がそのまま残せるように議事録の工夫も行った。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>代表(管理者)は、職員に今年度の自己評価の項目を含めて口頭で説明した。職員も含めて話し合いをし、日頃の状況を振り返りながら自己評価を行った。日頃行っていることを振り返る機会になるとともに、現状の再認識にもつながった。自己評価を通して、ケアへの職員の意識の視点が共通であることを知ることができた。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ご利用者・ご家族・自治会相談役・民生委員・地域包括支援センター職員・短期大学講師の方々が集い、2ヶ月に1回、開催している。新たに、中学校の教諭の方、認知症認定看護師(2人)の方が参加して下さっている。活動報告、行事報告や職員の研修参加報告等を行い、参加者からもご意見・質問を頂いている。ケアに関するアドバイスも頂けており、日々の関わりの中に取り入れさせて頂いている。ご利用者の方も「楽しく過ごしています」と会議の場で話して下さい、他の参加者も「外出の機会や行事が多くて良いと思います」と感想を伝えて下さる。ホームでの暮らしを知って頂く良い機会となっている。市の方々にも相談しやすい関係が作れている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族のお力があるからこそ、ホームの運営はできると管理者は考えており、常々、ご家族の方々のご意見を頂く取り組みを続けてきた。心配されていること、知りたいことを把握する努力を続けており、最低、週に1回から月に1回程度、ご家族の来訪時に、日頃の暮らしぶりなどを口頭で説明し、ホーム内にも、行事の時の写真を貼っている。必要時は、電話やメールでの報告もしている。「職員の優しさ、温かさに、感謝しています」と言う言葉も多く、管理者等もありがたく思っている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設以前からご挨拶回りを続け、自治会相談役の方にもアドバイスを頂きながら、地域の方に受け入れて頂く取り組みを続けてきた。地域の寄り合いにも出席し、地域の方々との交流を行うとともに、ご利用者と一緒に小学校区の生徒の見守り活動にも参加してきた。地域向けに“中川のより道だより”を発行し、健康情報などを掲載している。今では、ご利用者の方が一人で散歩をされている時は、地域のお店の方からホームに連絡を頂くこともあり、地域の方々からの温かいご支援に、感謝することが増えている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に管理者を中心に「のんびり ゆったり そのひとらしく」と言う理念が作られた。理念の中には“地域でおこなっていたことを、特別なことではなく、ごくあたり前にしていただく”という思いが込められている。ホームのご案内の中にも「・・・山の中ではなく、住み慣れ、見慣れた環境の中にあり、散歩や買い物などの生活を送り続けることができます・・・」と言う、理念に通じる内容が写真付きで表現されている。開設以来、ご利用者が地域の中での生活が送れるような取り組みを続けている。	○	今までも、現管理者、ホーム長を中心に理念のあり方を見つめ続けてきた。現在の理念を基本にしながらも、今後も更に、職員同士で、“地域密着型サービス”の役割を意識して、理念のあり方(表現の仕方)を検討していきたいと考えている。より多くの方に、理念に込められている意味を理解して頂くことにつながっていくと考えられ、今後の引き続きの取り組みに期待していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人教育や職員会議、日々のケアの現場でも、常に、代表(管理者)やホーム長が理念に関する話しをしており、全職員、理念を理解している。「今の行動(介護)は、ご利用者がどの様に感じたと思うか」「主役はご利用者」と言うことを伝え続けている。“待つ”ことが苦手な職員もおられたが、日々の指導のお陰や先輩の職員の行動を見ながら、ご利用者お一人お一人のペースを尊重し、言葉のかけ方に配慮し、ご本人の発言を待つようにするなど、全職員、理念の実践ができるようになってきている。	○	昨年度、課題に挙げていた“音・光・におい”の更なる配慮の実践に向けて、日々取り組んできた。“光への配慮”と“においへの配慮”については、職員全員がご利用者の立場にたつて、意識した取り組みができてきている。今後は更に、“日常生活の中で発する音、聞こえてくる音”への取り組みを継続していく予定である。“音”への観察を深め、ご利用者にとって不快な音ではないのか、業務が優先していないのか等の検討を続け、ご利用者の方々が、より快適な生活が送れるような取り組みを期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	平成14年の開設前から、管理者を中心に地域の方々にご挨拶を続け、“中川のより道”が地域の方々を受け入れて頂ける取り組みを続けてきた。自治会に加入し、地域の盆踊りや校区祭りには、ご利用者も一緒に参加してきた。お祭りの時にはホームも出店を出し、職員やボランティアの方で手作りちまきなどを作り、ご利用者の方が売り子さんになっている。地域の寄り合いにも出席し、地域の方との交流を行うとともに、ご利用者と一緒に小学校区の生徒の見守り活動にも参加している。	右へ 続く	年に4回、地域向けに“中川のより道だより”を発行し、健康情報などを掲載している。今では、ご利用者の方が一人で散歩をされている時は、地域のお店の方からホームに連絡を頂いたり、ホームの横を通った方が「見学をさせてください」と訪問してきて下さる方も増えてきており、ボランティアの数も増えてきている。地域に受け入れて頂いたこと、地域の方々に支えて頂いていることを、管理者やホーム長、職員はありがたき思い、常に感謝の気持ちを伝えていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表(管理者)は、職員に今年度の自己評価の項目を含めて口頭で説明した。職員も含めて話し合いをし、日頃の状況を振り返りながら自己評価を行った。日頃行っていることを振り返る機会になるとともに、現状の再認識にもつながった。“ケア面”に関しても、職員が共通の視点を持って取り組んでいることが再確認できた。昨年度の外部評価の結果は、今後も創意工夫をしていくことの大切さを代表(管理者)から伝え、全職員で話し合い、改善に向けた取り組みを続けてきた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今まで、ホームの応援団となって頂いている方々に声かけし、会議に参加して頂く取り組みを続けてきた。その結果、中学校の先生と、認知症看護認定看護師の方が新たに参加して下さるようになった。ご利用者、ご家族からは、利用しての感想等、他参加者の方々からは、それぞれの活動状況や課題、ホームへのアドバイス等を伝えて下さり、参加者の方にとっても有意義な学びの場ともなっている。自己評価の取り組み状況、外部評価の結果も報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年以降の取り組みとして、ホームの通信を市役所に持参する等、日々の取り組みを話しあえる機会を作ってきた。日頃のホームの取り組みを理解して頂く良い機会となっている。「行政への報告の仕方や職員指導について等」、市の保健師等に相談しているが、親身に相談にのっていただき、アドバイスも頂いている。年に1回、市の相談員の方もホームに来られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者、ホーム長や職員は、ご家族の方がそれぞれ心配されていること等を把握できるように努めている。週に1回から月に1回程度、ご家族の来訪時に日頃の暮らしぶり等を口頭で説明し、ホーム内にも行事の時の写真を貼っている。必要時は、電話やメールでの報告もしているが、メールも、携帯・パソコン等、連絡の取りやすい方法を確認しあっている。受診状況等で日頃と変わり無い状況でも、看護師が、随時、丁寧に報告している。買い物等の金銭の収支も相談・報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がホームを来訪時、なるべく管理者、ホーム長、職員ともに、ご家族に声かけし、繰り返し要望を言って頂けるよう心がけている。年に2回の家族会では、ご家族だけでお話ができる機会も作り、ご心配なことがないか、ご家族の表情に気を配り、しっかりお話を聴くように努めている。ご意見などを頂いた場合は記録に残し、全職員で考え対応するようにしている。相談の内容によっては、医師から直接説明して頂く等、ご家族の不安を安心に変えることができるような取り組みを心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単独のホームであるため異動はない。運営者である管理者は、馴染みの関係でケアができることを大切に考えており、職員の相談にも気軽に応じる体制を取ってきた。職員間の仲が良く、職員の勤務希望に極力応じたり、運営者である管理者も、職員の話を良く聞くようにしており、日頃からチームワークを大切にしている。会議や食事会の場でも、相談しやすい環境を作りたいと考えている。開設当初からの職員も勤務しており、看護師であるホーム長とともに、職員の相談役になっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最低月に1回以上、会議と同じ日にホーム内研修を行っている。運営者である管理者は、職員の研修受講履歴を記録に残し、個々の経験や段階に応じた研修が受けられるようにしている。県・市・事業所連絡協議会の研修にも職員が参加し、ホーム内で伝達研修も行っている。ホーム長自らが、常に勉強熱心な姿勢を示しており、職員もその影響を受け「勉強をしていきたい」という環境ができてきている。現場では、管理者、ホーム長、先輩職員等が主に職員の指導にあたっているが、職員全員で相互教育をしている状況である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者である管理者は、開設時より、全国グループホーム連絡協議会に加入している。その後、長崎県認知症グループホーム連絡協議会にも加入している。同業者との交流の必要性への認識は一貫して変わらず、職員同士の交流を図る場を積極的に作ってきた。他のグループホームとの勉強会を行うとともに、電話やメールでの情報交換も多くなっている。相互訪問を行うとともに、研修会があれば職員が参加できるようにしている。他のホームの取り組み内容を知ることができ、とても参考になっており、今後もネットワークづくりを続けていく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、管理者・介護支援専門員の2人で、ご自宅や病院等に事前に訪問したり、ホームに入居する前に、ホームの見学に来て頂き、職員とも顔馴染みになれるようにしている。入居の説明は、ご家族からご本人に説明をして頂くようにしており、なるべく、ご本人が安心して納得して入居できるよう配慮している。ホームの生活に慣れるまでは、ご家族の面会を多く持って頂くようお願いしたり、事前にご家族から、ご本人の好みや介護への希望等も教えて頂いている。特に入居1年は、四季折々のお気持ちの変化にも寄り添い、個別の対応を続けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩であるご利用者の方々から、職員は多くの学びを頂いている。昔の歌や長崎弁、しきたりやお作法等も教えて頂くとともに、「ありがとう」「あんたで良かった」等の温かい言葉を頂き、ご利用者の方から支えられていると言う実感を味わっている。戦争時の話や、原爆投下の日のことも教えて下さり、職員も日々勉強させて頂いており、その都度、職員は、感動や感謝の気持ちをご利用者に伝えている。“このホームで仕事をさせて頂いているからこそ”の学びであると、職員は心より感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で、ゆっくり会話ができる時間を作るように心がけている。お一人お一人のお気持ちに寄り添い、意思疎通が困難な方はご利用者の行動や表情を見つめ、ご利用者と目線を合わせることで、ご利用者の思いに近づく努力をしてくれている。リビングやお部屋・買い物・散歩・入浴時など、職員と2人になった時に、なるべく本音を語って頂けるようにしており、ご利用者の何気ない言葉に込められている“本当のお気持ち”に近づきたいと職員は考えている。	右へ 続く	「このホームで仕事をできるようになり、ご利用者とゆっくり向き合い、お話ができる時間ができた」と感じている職員が多い。ゆっくりお話をすることで、ご本人の秘められているお気持ちを知ることができることを学ぶため、職員自身が、自然とゆったりとした動きになってきている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、あらかじめ、ご本人・ご家族の意見、希望を聞きながら、かかりつけ医に相談した結果も踏まえ皆で話し合っ作成している。「センター方式」を活用し、“私の願い”と言う視点を職員は大切にしながら、“その方らしさ”を把握し続けている。ご利用者お一人お一人のご希望を把握し、“地域で暮らす”と言う視点も盛り込み、ご利用者主体の介護計画になるように努めている。昨年以降、ご利用者・ご家族・主治医など、全員で話し合う機会も増やしてきた。管理栄養士、歯科医師からのアドバイスも頂いている。	右へ 続く	介護職員は、研修を受ける中で、アセスメント(情報収集や課題の把握、分析など)が大切であることを学んできた。介護計画の一連のプロセスの理解も深まってきている。ご利用者個別の生活の目標を持つこの重要性も理解できてきており、毎日の申し送り、月に1回の会議での意見交換も有意義なものとなってきている。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	昨年の暮れ頃から、毎日時間を決めてミーティングを行うようになった。今までも日々のミーティングを実施していたが、明確に開始時間を決めたことで、その後のケアの活かし方も迅速になってきている。1ヶ月に1度の会議では、全員の体調や暮らしぶりの意見交換を行っている。短期目標に合わせてモニタリングを実施するとともに、日頃から、ご本人、ご家族にも意見を伺いながら介護計画の見直しをしており、状態が変化した場合、随時見直しを行い、介護計画の変更をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者やご家族の要望に応じて、通院介助の他、急な受診の対応もしている。医師への報告を徹底し、異常の早期発見、早期治療につなげている。発熱や下痢の風邪症状の方がおられたが、医師の指示のもと、ホーム内で点滴治療をして回復された。入院されている方にはお見舞いに行き、ホームでの生活が可能かどうか医師との連携を取り、早期退院につなげている。また、ご希望に応じて、お寺や教会など出かけた場所にもお連れしている。地域の方からの介護相談にも応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族などの要望を聞き、以前からのかかりつけ医で受療して頂いている。かかりつけ医には、日頃より、ご利用者の状況、暮らしぶり等を、看護師等が細やかに報告しており、いつでも相談できる関係ができています。かかりつけ医からも、適宜、必要な助言・指導を頂いている。通院介助は、職員が行っており、通院の結果は看護師よりご家族に報告している。職員の医療面の知識、技術向上のために、看護師(ホーム長)がホーム内研修も続けている。完全な不安をぬぐうためには、まだ時間はかかると思われるが、継続していく予定である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「③看取りに関しては、ご本人やご家族の希望を尊重し、綿密な話し合いをして決定する。その後も、ご家族が職員とともにご本人の状況を把握し、日々の体調の変化に基づく方針を検討していく(『看取りに関する考え方』を一部抜粋)」等、ご入居時に、ご家族等に説明している。ご利用者やご家族に対して、重度化した場合や、終末期の意向も把握できており、ご希望に応じた対応を行っていきたいと考えている。医療処置が必要なご利用者の場合は、看護師が入院中の病院に出向き、病院での処置の状況を見させて頂き、ホームの介護職員に伝達している。	○	現在、看護師等を中心にして、介護職員に対する“医療面に関する”指導、研修を続けている。医療処置が必要なご利用者に対して、介護職としては、どのような支援ができるのか、ホームとしても検討している段階ではある。必要時は医師が駆けつけて下さる体制も整えており、訪問看護を受けられる体制もある。終末期のケアに関しても、今後、職員一人一人の気持ちを把握していき、ホームの方針を全員で共有していける取り組みが期待される。職員個々の思いを理解することから始め、感じている不安等も真に共有でき支援していくことで、更なる職員の自信につながっていくと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々、管理者、ホーム長等より、お一人お一人の誇りやプライバシーを損ねる言動をしないよう指導しており、職員も「ご利用者のプライバシーの保護を一番守らないといけないこと」と考えている。ご利用者への言葉かけに心を配り、職員はお互いに言動を注意している。職員が、ご利用者の居室を入室する時は、必ず声かけを行い、その方に応じた話し方を気をつけるとともに、否定的な言い方はしないようにしている。職員は、個人情報の取り扱いにも配慮し、情報の漏洩防止にも努めている。	○	ご利用者に対して「常に馴れ合いにならず、敬意を持った言葉かけや対応をしていきたい」と職員は考えている。ご利用者同士が会話をしている時の声かけの仕方等を含めて、今後も、どのような言葉かけが、“ご利用者にとって、より良い言葉なのか”、ご利用者、職員とともに話し合いを続けながら、更なる“尊厳の保持”とは・・・を、追及していけることを期待していきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昨年までは、“皆さんと一緒に”と言う行動も多かったが、お一人お一人の要望を聞いて、個別の対応を増やしてきている。希望を言えない方であっても、なるべくご本人のペースで自由に行動して頂くとともに“寝たきりの生活”にならないよう職員は介護計画を作成し、行事のあり方や声かけの仕方工夫してきた。ご利用者同士の助け合いや思いやりの気持ちが強く、お互いに支えあって生活されている光景が見られている。その、ご利用者のお気持ちに配慮しながら、“ホームの主人公”であるご利用者の生活の支援を続けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部評価時「このご飯はおいしいよ!」とご利用者が話して下さいました。ご利用者の楽しみは“食べること”であり、ご利用者に、食べたい物のご希望を聞いたり、食材の買出し、下ごしらえ、食器拭き、テーブル拭き等、お一人お一人のお力を発揮して頂いている。時々、外食したり、旬のものをお出しし季節感も味わって頂くとともに“長崎皿うどん”の出前は、ご利用者に人気である。同じテーブルで職員も一緒に食事をしており、楽しい会話の中で食事ができるよう心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、入浴日を決めているが、ほぼご利用者の希望どおり入浴はできている。羞恥心への配慮も大切にし、基本的には一人ずつの入浴にしている。ご本人のご希望に応じて、固形石鹸を使ったり、体調に留意しながらも、湯温・入浴時間も好みに応じている。限られた浴室の広さの中で、職員は楽しい入浴となるように、また危険がないように配慮を続けている。季節感を出すために、ゆず湯をしたり、入浴時の会話を大切にするとともに、冬はハロゲンヒーターを活用し、脱衣所を十分に保温している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の方々に、長年培ってきたお力を発揮して生きがいを持って頂けるよう、ご本人が“できること”を活かせるように、職員は日々努めてきた。今では、食後の食器洗いや食材の買出し・食事の下ごしらえ等、ご自分からされる方が多く、「ここ(ホーム)での役割があることが嬉しい」と外部評価の時に語って下さるご利用者もおられた。昨年以來、個別の楽しみも多く取り入れてきており、近隣への散歩・リハビリ、仲の良いご利用者のお部屋を訪ねる等、個別の楽しみを持っておられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居する前から良く行かれていたお寺や教会、喫茶店でコーヒーを飲む、買い物等、お好みの場所に個別に外出できるよう職員は対応している。昔の知り合いの方に会えるので、なるべく馴染みの場所にお連れできるよう心がけている。散歩が好きな方は散歩と、ご本人の意向に合わせた外出ができるよう配慮している。地域の行事、お花見やドライブ等、季節の移ろいが楽しめる気分転換できる方法を、職員は日々考えている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は開放されており鍵はかけておらず、ご利用者やご家族の方等には自由に入出入りして頂いている。職員は、ご利用者が不安になられる時間帯や原因を把握して、お一人お一人の行動の確認、見守りに努めている。近所の消防署・交番・レストラン等の地域の方にも、何かあった場合の協力体制はできている。お一人で外出されたご利用者がおられたが、地域のお店の方から連絡を頂いたことがあった。地域の方に見守られていることを実感させて頂いた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年、自衛消防隊研修課程(長崎消防学校)に職員が参加した。火災訓練を年2回実施し、全職員・ご利用者・消防署の方が参加し訓練を行い、夜間を想定しての救助方法の研修も行っている。また、AEDの使用法の訓練等、緊急時の対応に向けた訓練もしている。災害時にも、近隣の交番等の協力を約束頂いている。また、災害時の非常用持ち出しバック(懐中電灯・ラジオ・救急セット・ビニール袋・下着・紙おむつ・食料・水・ライター・ろうそく・懐炉・食器・軍手など)を準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の食事の好み、摂食状況を把握し、肉を魚に変えたり、カレーはご飯にかけずに別に盛ったりと、食べやすい工夫を続けている。きざみ、ソフト食等、ご利用者の嚥下状態に応じた食事を作っているが、管理栄養士や歯科医師との連携も図っている。食事量・水分量ともに把握し、記録に残している。大学教授の管理栄養士の方に献立を見てもらい、アドバイスを頂いたり、定期的に体重測定を行い、血液検査の結果に基づいて医師からもアドバイスを頂いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや食卓に、ご利用者と職員が一緒に買った季節の花々を飾っている。2つのテーブルを付けて多くのご利用者が集えるようにしており、季節の花々を囲んで、自然と会話も“お花見、外出”へと広がっていている。リビングは窓が多く、とても明るい空間になっており、お隣の家の花々も見せて頂ける。電車の音が聞こえてきて、下町で暮らしている感覚を常に味わうことができる。日差しに配慮したカーテンやブラインドを使用しており、ソファや食卓、テレビを置いてくつろいで頂いており、めだかも飼育している。臭いがこもらないよう換気にも注意している。	○	ご利用者が生活をする環境を大切に考えており、今後も、音の大きさ、流す音楽の選曲等も、細やかに配慮していく予定にしている。ご利用者にお好みをお聞きしながら、居心地の良い空間を作っていかれることを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各お部屋の入り口には、お好みの暖簾がかけられている。ご本人、ご家族とも相談しながら、衣装ケース・鏡台・仏壇・お人形等持ってきて頂き、部屋のレイアウトも一緒に考えてもらっており、居室のカーテンの色も選んで頂いている。職員も、ご本人の移動状況を確認しながらベッドの配置を考えたり、安全な生活になることと合わせて、ご利用者にとって慣れ親しんだ居室になるように配慮している。		